

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

H30年6月1日

秋田県知事
佐竹 敬久 殿

提出者

住 所 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉾山字尾樽部60番-1
氏 名 小坂製錬株式会社 代表取締役社長 仲 雅之
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 0186-29-2700



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	小坂製錬株式会社 小坂製錬所
事業場の所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂鉾山字尾樽部60番-1
計画期間	H30年4月～H31年3月

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

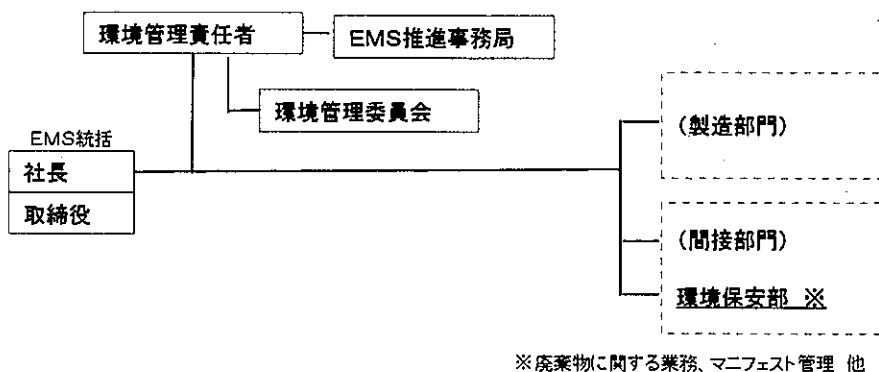
①事業の種類	非鉄金属第一次製錬・精製業
②事業の規模	売上高 12,499百万円
③従業員数	320名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1参照

(日本工業規格



特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 別紙2参照

①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・委託処理会社の指示に応じて分別を実施
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・委託処理会社の指示に応じて分別を実施

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】	
	特別管理産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	特別管理産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組)	

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項 別紙3参照

①現状	【前年度（平成 年度）実績】	
	特別管理産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(これまでに実施した取組)	

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。

別紙1 産業廃棄物の一連の処理の工程



別紙2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度(平成29年度)実績】							(単位 t)
特別管理産業廃棄物の種類	汚泥(有害)	廃アルカリ(有害)	引火性廃油(有害)	引火性廃油	廃PCB等 PCB汚染物		
排出量	61.74	10.54	0.07	0.3	8.616		
(これまでに実施した取組)							
<p>①現状</p> <p>・グループ会社での中間処理・最終処分による適正処理</p>							
【目標】							(単位 t)
特別管理産業廃棄物の種類	有害汚泥	引火性廃油	廃PCB等 PCB汚染物				
排出量	30	1	15				
(今後実施する予定の取組)							
<p>②計画</p> <p>・グループ会社での中間処理・最終処分による適正処理 PCB含有トランスが発見されたため、昨年に引き続き、処理を行う。 現在設備の解体工事を進めており、その際に発生する廃棄物が重金属を含んだ場合は適正処理の観点から増える可能性がある。</p>							

別紙3

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項 (単位 t)									
【前年度(平成29年度)実績】									
特別管理産業廃棄物の種類	汚泥(有害)	廃アルカリ(有害)	引火性廃油(有害)	引火性廃油	廃PCB等PCB汚染物				
全処理委託量	61.74	10.54	0.07	0.3	8.616				
優良認定処理業者への処理委託量	61.74	10.54	0.07	0.3	8.616				
再生利用業者への処理委託量									
認定熱回収業者への処理委託量									
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
(これまでに実施した取組)									
グループ会社での中間処理・最終処分による適正処理									
【目標】									
特別管理産業廃棄物の種類	有害汚泥	引火性廃油	廃PCB等PCB汚染物						
全処理委託量	30	1	15						
優良認定処理業者への処理委託量	30	1	15						
再生利用業者への処理委託量									
認定熱回収業者への処理委託量									
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
(今後実施する予定の取組)									
グループ会社での中間処理・最終処分による適正処理 ただし、現在設備の解体工事を進めており、その際に発生する廃棄物が重金属を含んだ場合は適正処理の観点から増える可能性がある。									
①現状									
②計画									